

新宿山吹高校 ボランティア研究部 —活動報告と今後の研究課題—



ボランティア研究部の楽天ブログ表紙

URL <http://plaza.rakuten.co.jp/enlighten/>

東京都立新宿山吹高等学校
ボランティア研究部

目次

新宿山吹高校および部活動の特色

- 1.フェアトレードプロジェクト
- 2.収集ボランティアについて
- 3.エコキャップ運動について活動してみての
考察
- 4.文化祭での発表
- 5.今後の課題

新宿山吹高校および部活動の特色

新宿山吹高校は昼夜間定時制と通信制の二つの課程を併設する都立高等学校である。このうち定時制課程については、普通科と情報科の二つの科を設置している。学校の設立は1990年と比較的新しく、また大きな特徴の一つとして無学年制かつ単位制の学校であるため、様々な年齢層の生徒が通学している。結果として、各人が主体的に柔軟性のあるカリキュラムを組み、自らの興味のある分野の勉強を出来るシステムとなっはいるが、同時に個々の授業が朝から夜まで分散する傾向にあるため、部活動などは各部活動ごとに所属している生徒間での話し合いなどにより活動時間を決定しているのが現状である。

また生涯学習講座も同時に行われているため、お年寄りを含む様々な年代の方と校内に居ながらにして授業などを通じ交流が出来るのも特色である。

ボランティア研究部が行う活動は主に、発展途上国など我々日本人が一般的になじみのない国々の抱える問題について考えを深め、行動していくことを目的としている。

例えばペットボトルキャップや使用済みカード類の回収など、ボランティアという言葉から連想されやすい活動の他にも、ICT*(情報通信技術)を活用したフェアトレード・ボランティアなども並行して行っている。活動形態としては前出の通り、話し合いの結果主に校内での活動は昼休みが中心となっている。そこでの話し合いをもとに、休日などに校外で活動することも多い。10月には、日比谷公園で開かれたグローバルフェスタの政府系開発組織のブースにおいて、希望した二人がボランティアとして手伝いに参加した。

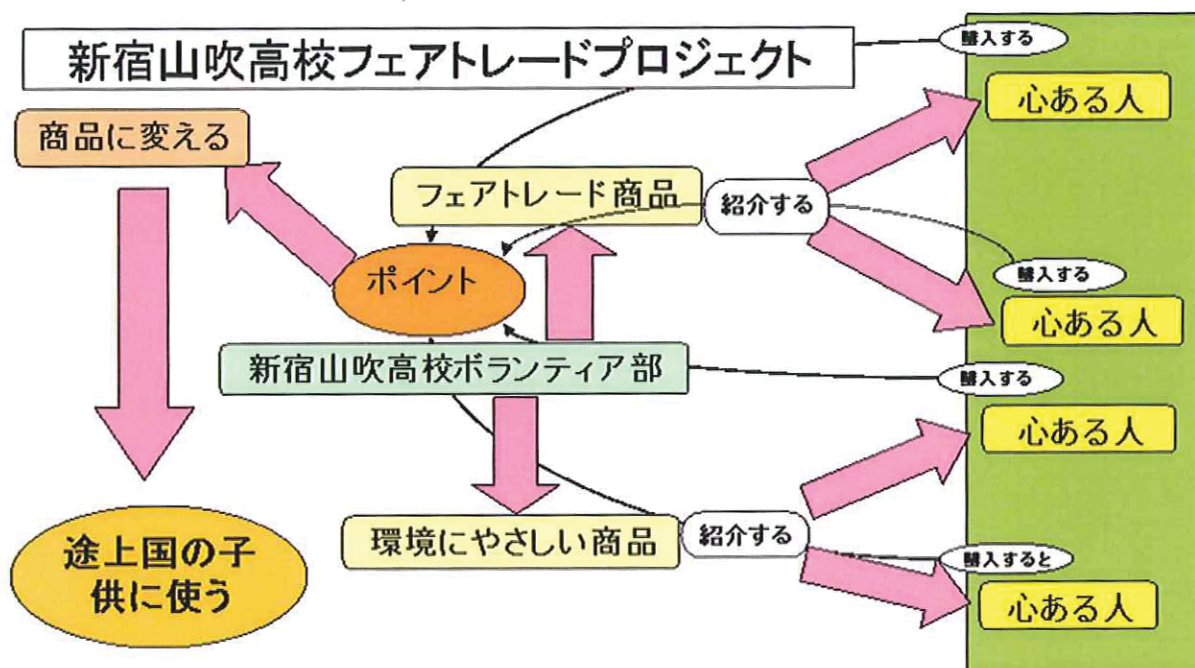
また、今年度からは異色の活動としてアマチュア無線部との協力体制を組むことにしました。ボランティア研究部とアマチュア無線部の両方に入っている生徒が多いためですが、アマチュア無線が主に行う、世界とのコミュニケーションが、ボランティア研究部が行おうとしている、国際コミュニケーションと重なるからです。まだ詳しい方向性は決まっていますが、相互の特性を生かして協力していきたいと思います。

1. フェアトレードプロジェクト

目的と概要

ボランティア研究部では、高校生でも実行可能な国際ボランティアの実行を目的として、活動を開始した。活動を開始したきっかけは、自らでお金を稼ぐことが難しい高校生が、お金を寄付したとして、それは本当に援助になるのかという点にあった。そこで、私たちはフェアトレード商品を購入してもらうことによって、援助に参加してもらうことを狙った働きかけを行っていくこととした。これが、「ウェブボランティア」である。

具体的には、インターネット上のスペースにウェブログ（以下、ブログ）を開設し、その場を媒介として、フェアトレード商品を高校生の感覚で紹介することとした。



ブログというバーチャルな場を選定した理由

情報科を有しているという学校の利点を生かすことが出来る。
フェアトレード製品について学んだことを、手軽にそれらのことを知らない人や今まで興味のなかった人に、自分の言葉で紹介することが出来る。などの点が挙げられた。

フェアトレード商品をブログにアクセスした人が購入すると、その際にアフィリエイトの仕組みを通して、ポイントが国際ボランティア研究部に付与されることとなる。私たちは、そのポイントを途上国支援の活動のために使うこととした。

□1 フェアトレード

途上国で生産された品物（主にコーヒー豆やカカオ豆などの第一次産品が多い）を日本を含む先進国が現地生産者に対し不当な価格で買ったくのをやめ、労働に見合った価格で購入するトレードの総称。

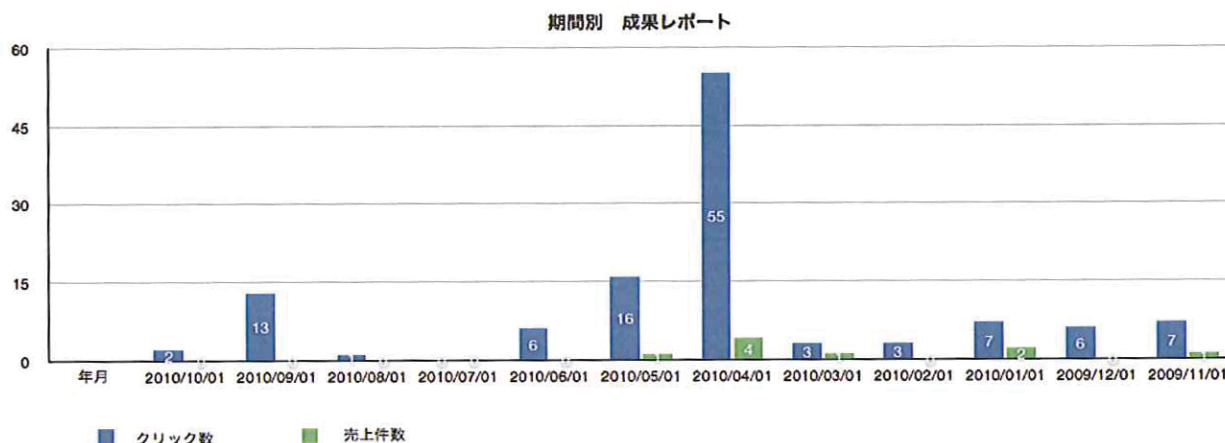
労働に見合った賃金を得た労働者は、また働く意欲をもち、それが次の仕事へとつながり、さらに良いものを作ろうと技術を学び、磨くという良い流れの中に労働者を置くこととなります。技術を身につけた人が増えることは、自立への道を開くことに繋がります。

□2 アフィリエイト

インターネット上のウェブページに広告や商品の購入フォームを設置し、その広告を訪問者がクリックしたり実際に商品を購入した際に、広告の出展主から設置した側にお金やウェブマネー、あるいはポイントといった形での報酬を決められた額を支払う仕組み。

実践の成果と実績（2010年10月段階10147ポイント）

この活動において、ブログへの総アクセス数は2010年10月21日現在において18624アクセス（一日約、10アクセス）があるものの、実際の購買行動へ進んだ事例は数件に留まっている。参考に過去一年間の成果をグラフとしてみました。



取り組みの効果と評価

アクセス数の増加は、多くの人に「フェアトレード」の仕組みを知ってもらうために大きな効果になったと考えている。また、ウェブ上で収集ボランティアの報告という、直接フェアトレードに関することだけではなく、高校生が日ごろ感じていることや、意見などを記述した時、2010年の4月のグラフに見られるように、より多くのアクセス数を集めた。これは、高校生が自分の見方や気持ちを率直に書くことで、身の丈のボランティア活動を行っていることが理解されたことと、地道に報告を続けることで活動についての透明度を上げることが信頼感を高めることに繋がったからではないかと考えている。

しかしながら、アクセス数の増加が商品購入者数の増加に直結していないという点については、以下の理由が考えられる。

- 高校生など、時分たちと同じような立場の人が訪問者の割合に多いのではないかと。結果としてフェアトレードへの理解や共感はあるが、購入まで至ることが資金的に困難である。
- ウェブの持つバーチャル性、ウェブ上での行動の現れは実際の行動とは関係しないのかもしれない。ウェブメディア自体が人の心を動かすのには向いていないのかもしれない。
- 現在の商品が訪問者のニーズに必ずしもマッチしていないのではないかと。

今後の計画

アフィリエイトという活動自体はウェブ上で様々な形となって定着しているので、

取り組みそのものが間違いであるとは考えていない。ただ、前項で提示された課題について改良を加えていくことが必要であるとは考えている。

そのためには、購買に至らない本当の原因を突き止め、課題を一つ一つ改良していくことが必要となる。一つには、ウェブという空間上での改良策として、他のフェアトレード活動を行っている人への聞き取りなどの活動。また現実世界での改善策として、自分たちのコミュニケーション能力の向上や他の集団との交流や接触を深めることが考えられる。しかし、悲観することもない。以下に述べる収集ボランティアやエコキャップ運動にくらべ、10147ポイントははるかに多く効率が良いのである。

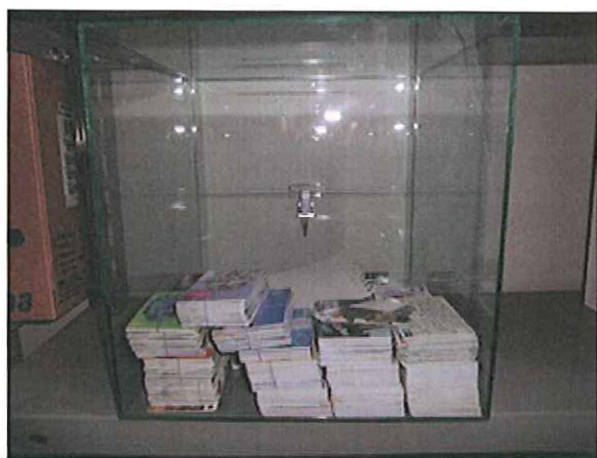
2 収集ボランティアについて

収集ボランティアは、学校の中に、収集ボックスを置き、そこに入れてくれた換金できる物品を、整理して数え、WEBで報告したあとに、学校に近いNGO組織シャプラニールに持っていきます。

シャプラニールではステナイ生活と題して、使用済プリペイドカードや不要になったCDや本、書き損じハガキなどを換金してバングラデシュとネパールでの活動プロジェクトで使われています。シャプラニールではクラフトリンク南風という店としてフェアトレード商品も扱っていて、私たちのブログの中でもリンクして宣伝しています。

カードのほうは、収集対象でないもの傷モノなどを省いて1868枚。

テレカが298.5円、プリペイドが659.6円で958.1円となりました。かなり収集したのにこれだけという感じもありましたが、実際に自分たちの活動で寄付できたのはうれしかったです。



パスネット	844 枚
スルッと KANSAI	314 枚
テレホンカード	202 枚
図書カード	30 枚
バス共通カード	23 枚
イオカード	245 枚
オレンジカード	14 枚
クオカード	187 枚
Jスルーカード	47 枚
国際電話のプリペイドカード	84 枚
メトロカード	4 枚
合 計	2024 枚



Citizen's Committee in Japan for Overseas Support

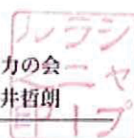
2009-02-03

都立新宿山吹高等学校 国際ボランティア研究部 様

特定非営利活動法人

シャプラニール＝市民による海外協力の会

事務局長 筒井哲朗



ステナイ生活へのご協力のお礼

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度は、貴重なご寄付をいただき誠にありがとうございました。皆さまのご寄付は、換金してバングラデシュやネパールの働く子どもたちの生活改善支援をはじめ、貧困削減のための活動に大切に使用させていただきます。なお、経費削減のため本状を以てお礼と代えさせていただくことをお許しください。今後とも継続的なご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

※10月より宅郵便のお申込方法が変更となっております。ペリカン便が集荷に伺う日時、箱数をお申込時にお聞きしています。詳細は当会ウェブサイト (<http://www.shaplaneer.org/sutenaibook/top.html#step>) をご覧ください。

■ご寄付内容

Su NO 13660

受付日 2009-02-03

書き損じはがき	0 円	使用済テレカ	298.5 円
使用済切手	0 円	使用済「リバード」	659.6 円
未使用切手	0 円	未使用「リバード」カード	0 円
未使用テレカ	0 円	CD	0 円
金券類	0 円	ゲームソフト	0 円
使用済「スニーク」ノート	0 円	外貨	0 円
本	0 円	その他	
合計寄付額			958.1 円

■いただいたご寄付で次のような活動を行っています。

～使用人として働く少女たちへの支援活動の現場で～

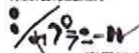


3,000円で、45人の子どもたちに絵本を提供し、少女たちが読み書きや計算を学ぶことができます。

5,000円で、料理教室を1回開催することができます。家事がうまくなると、雇い主の対応もよくなります。

10,000円で、雇い主に対して子どもの権利について知るワークショップを開催できます。社会の意識を変える一歩として、地域への働きかけは重要です。

特定非営利活動法人



＝市民による海外協力の会

169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1早稲田本社裏内 Phone 03-3202-7863 Fax 03-3202-4593 E-mail: info@shaplaneer.org
Head Office c/o Wasedahoshien, 2-3-1, Nishiwaseda, Shinjyuku-ku, Tokyo 169-8611, Japan

3.エコキャップ運動について活動してみての考察

エコキャップ運動も2年ぐらい前から始めました。キャップ400個で3150 g の CO₂が発生するので、それをプラスチックペレットにしてリサイクルすることで CO₂の発生を抑え、廃プラスチックのリサイクルになりエコなのだということのようだ。

最初は、5階の地学室前で集めていたのですが、1階のエントランスに大きな箱を置いて集め始めると、みなさんの目につくこともあり、多く集まるようになりました。現在はおよそ50kg ほどたまりました。

エコキャップ収集が始まった当初は、ある程度集めるとトラックでとりに来てくれるところもありましたが、プラスチックの相場が下がったため、定期的に収集に来てくれるところは近くにはなくなりました。

45リットルの袋で7袋およそ50kg 以上まとまれば引き取りに来てくれるところはまだあるようですが、少ない場合は専用の袋に詰めたり、専用の箱（一箱150円ぐらい）に詰めて郵送料（佐川を使うと420円 約6kg）を払って送ることになります。

このような状態になってきて、高校生としてこの運動を行うことはどうなのかという疑問がわいてきました。専用の箱を買ったり、郵送料を払うことがエコキャップの価値よりはるかに高いからです。

400個（約1kg）で10円ポリオワクチンは一人分20円ということは800個（2kg）で一人分となります。つまり800個で20円という価値です。佐川を使って送ると 2400個、6kg で60円分、つまり3人分のポリオワクチンに対して、420円プラス150円で合計570円を支払うことになります。それなら、570円を寄付したほうがと考えてしまいます。

回収すると確かにその分焼却で出る CO₂は減るのですが、みなさんが持ってくる時にはバラで持ってくるわけではなく、スーパーバックに入れてきます。これは捨てられやはり CO₂増加です。学校から段ボール箱に詰めて送ると、段ボール箱の CO₂分も増加します。それだったら、それぞれの家でゴミとして出したほうが余分なエネルギーを使わないことにもなります。さらにエコキャップをプラスチックペレットにする過程でも溶融しますので、エネルギーを使っています。これも CO₂増です。

さらに、燃やすことは悪いことばかりではありません。ごみ処理場では今、サーマルリサイクルとして熱エネルギーにしています。無駄に燃やしているわけではなくそのエネルギーをリサイクルしています。

これらのことを考えるうちに、ますます、高校生のボランティア活動としてこの運動は合わないことが分かってきました。

むしろ、ペットボトル1本120円を我慢して水道の水を飲み、その120円を寄付するこ
 との
 4800
 買え

ほうが、エコキャップ
 個分、ワクチン6人分を
 ることになるのです。



エコキャップの重さと個数の計測中



2010年10月まで収集したエコキャップの総量



シャプラニールに一度もっていった後に集まっている
 物品

外務省グローバル教育コンクール2010

4. ゴールは文化祭での部員一人一人の発表

本校では12月下旬に文化祭を行う。

高校生の文化祭企画というと、食べ物販売や、ゲームなどに流れがちだが、ボランティア研究部としては、基本に戻り自分たちが活動してきた内容を自分の言葉で伝えることに重きを置き、文化祭では参加メンバーが個々でプレゼン内容を決定し、プレゼンテーションを毎年行ってきた歴史を持つ。主なプレゼン内容としては、今までに行ってきたボランティア活動の成果報告や、研究内容の発表・今後の活動など何を取り上げても良いことになっている

ボランティア活動を外部へ情報公開するには、前述のブログを使用して部員が活動内容の記事を書き、第三者側が御覧になる形を主としている。しかし、この方法では一方通行で、コミュニケーションにはなっていない。

しかし、文化祭では直接様々な人々に来て頂ける、その人たちを前にして、部員の一人ひとりが高校生としての自分の言葉で発表することは一方通行ではなく、その反響が分かり、コミュニケーションがとれると考えている。

今年は、アマチュア無線部の公開運用も同じ場所で行います。自分たちの意見や気持ちを世界に向けてコミュニケーションもとってみたいと考えています。

5. 今後の課題

- ① 高校生でもできる国際ボランティア活動とは何かを、毎年考えて活動してきた。エコキャップは総括してやめることにしました。
- ② フェアトレードプロジェクトは、人が見える紹介をすれば成功するという事がわかりましたので、自分たちでもフェアトレード商品をほんとに理解して、それぞれが紹介してみようと考えています。
- ③ カード、や古切手などの収集ボランティアは、近くのNGOに持っていいけると、価値がエコキャップに比べても高いので、これらの収集に関しては、さらに呼びかけて続けていく。
- ④ アマチュア無線とボランティア活動について、インターネットのデジタルとは違うアナログのコミュニケーションの存在の活用を考えて、世界を声のコミュニケーションで結ぶボランティアのような可能性を考えたい。